

コミュニティサイクル導入による 利用者・非利用者の意識変化及び行動変化に関する研究

社会システム計画学研究室2017年度修士研究 中島那枝

研究の背景

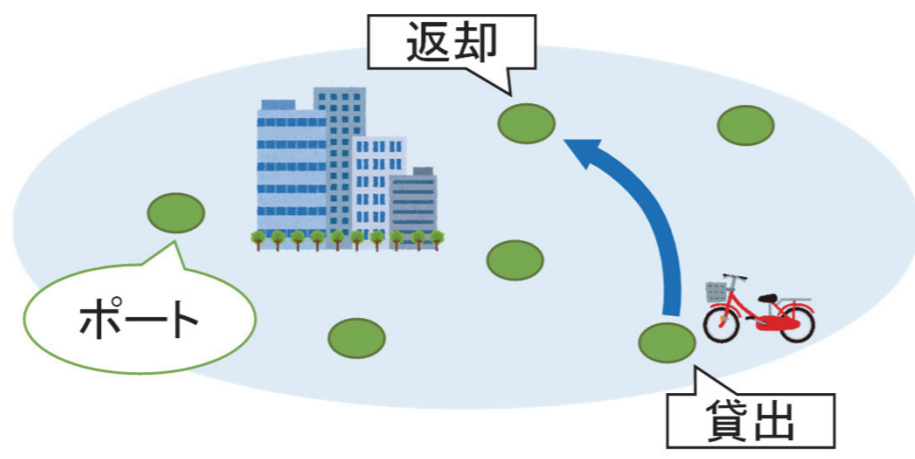
自転車・・・環境にやさしい
健康づくりに効用が高い
まちづくりのツール
さまざまな形で見直されている

その中で、都市の新たな移動手段として欧米を中心に世界各国でコミュニティサイクルシステム(CCS)が導入され、注目を集めている

日本では・・・87都市で本格導入されている
(2016年10月1日時点)

CCS導入の主な目的

- 公共交通の機能補完
- 環境負荷の軽減
- 地域の活性化
- 自動車利用の抑制
- 観光戦略の推進



一方で・・・CCS利用者の利用動向や事業効果の把握を行っている都市は少ない

また・・・CCSに限らず、行政が提供するシステムやモビリティへの投資は利用者だけでなく利用していない人の意見も含めて評価されるべき

今後のまちづくりを考えるにあたって、CCSの導入が利用者の行動やまちにどのような影響を与えるのか明らかにすることが必要

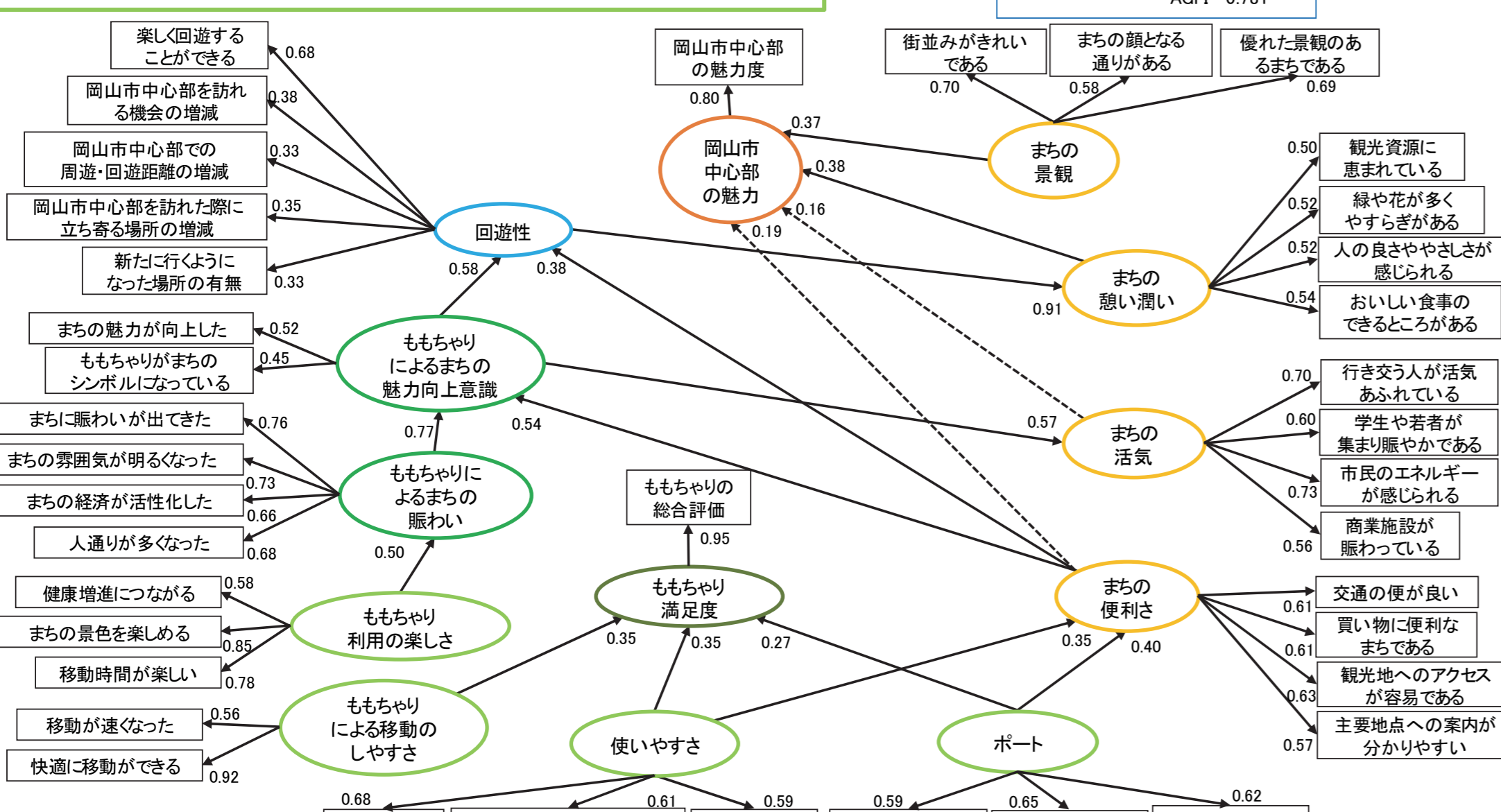
非利用者がどのように評価しているのかを把握することが必要

研究の目的

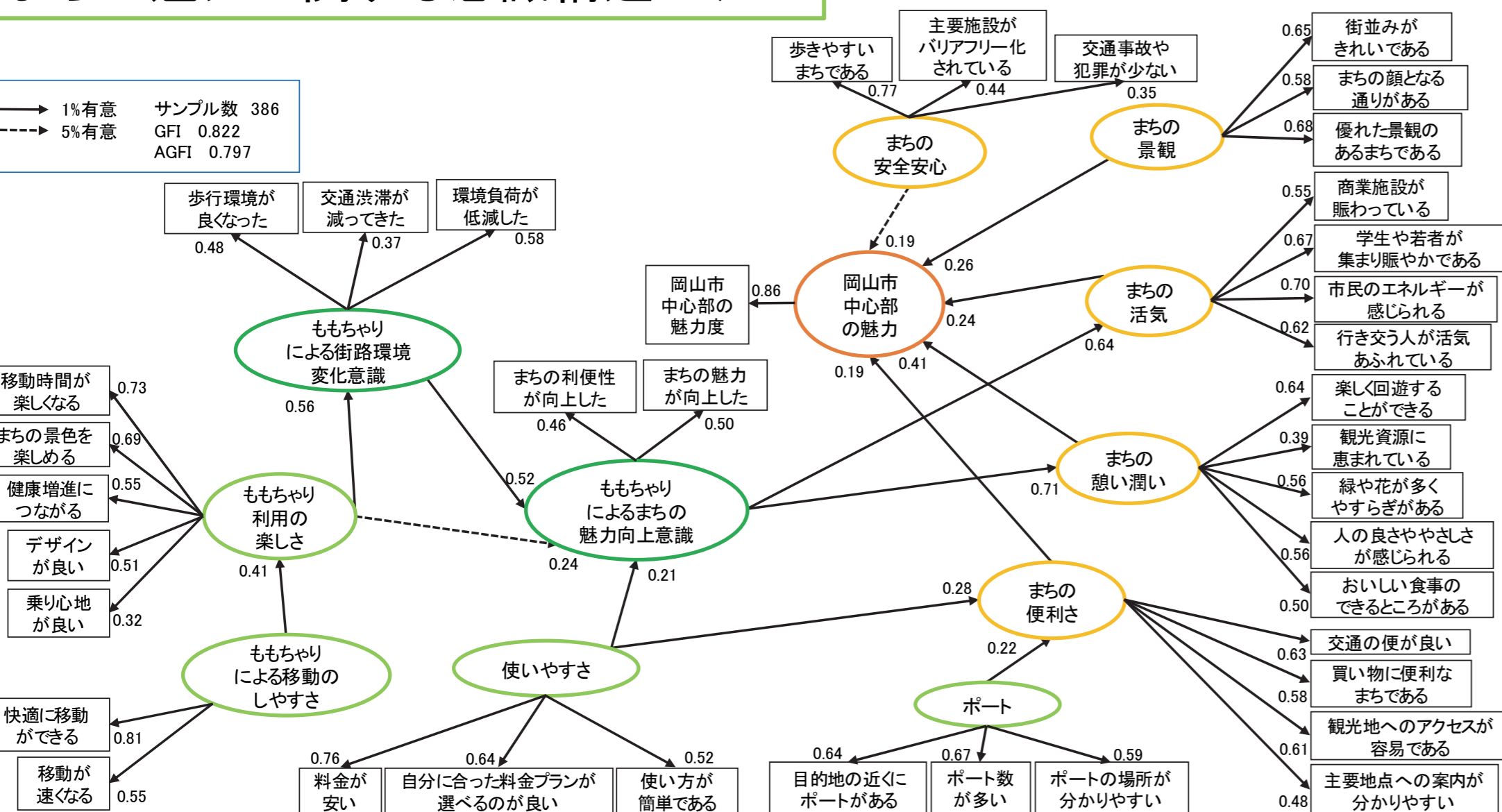
- 利用者・非利用者それぞれの視点からCCSの導入がまちの魅力にどのように影響しているのか把握する
- CCS利用者の行動変化を把握する

分析結果

ももちやり利用者の まちの魅力に関する意識構造モデル



ももちやり非利用者の まちの魅力に関する意識構造モデル

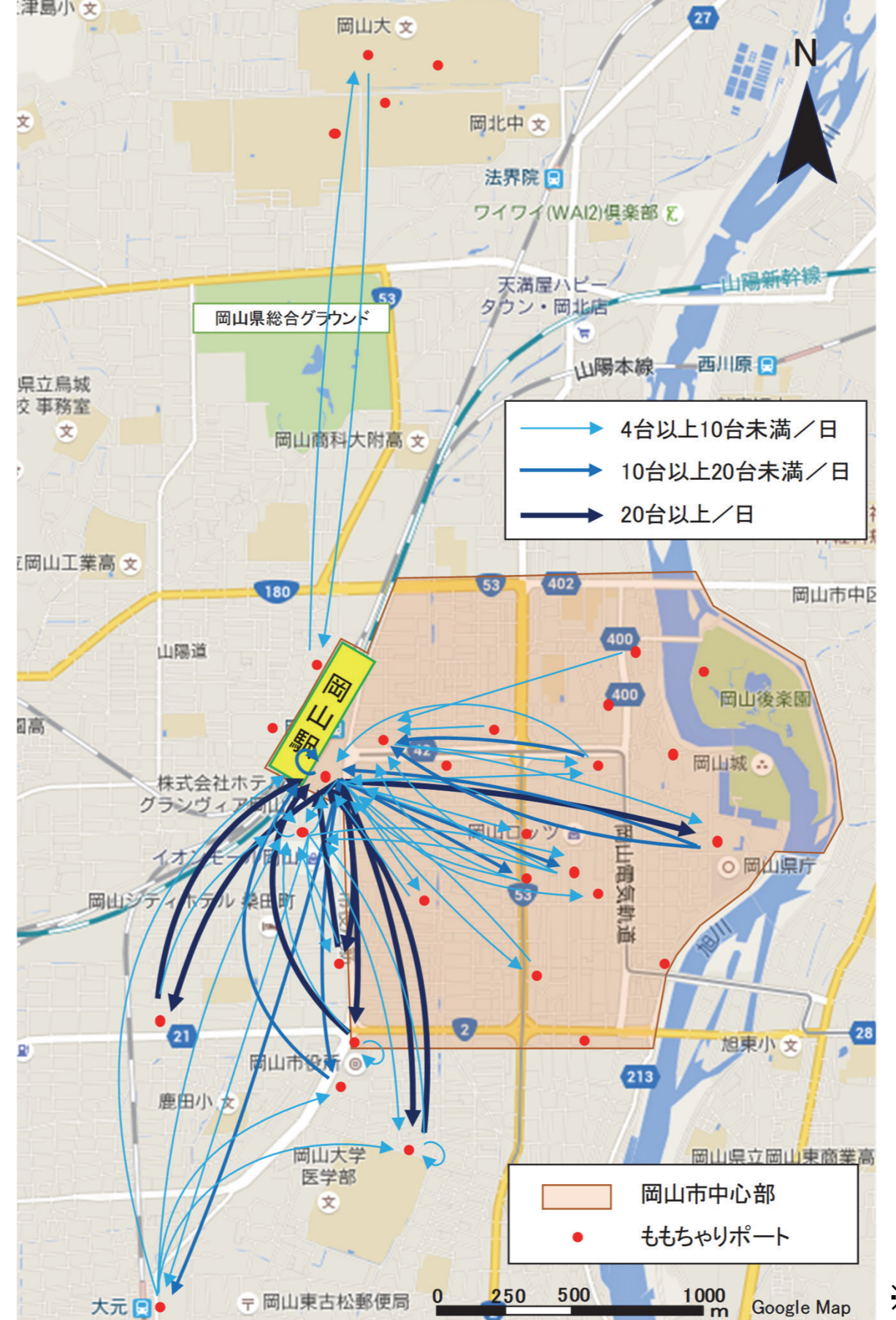


調査対象と使用データ

岡山市コミュニティサイクル「ももちやり」

- 2013年7月27日運用開始
- 岡山駅東側を中心に31ヶ所でポートを展開(2015年12月時点)
- 回転率 3.99回/日(2016年度)

2015年10月1日～11月30日の利用状況



調査名	岡山市コミュニティサイクル「ももちやり」に関するアンケート調査(紙調査)
調査対象者	ももちやり利用者
配布・回収方法	岡山駅周辺ポートにて手渡し配布・郵送回収
調査時期	2015年12月10日～19日 のうち8日間(7:00～20:00)
配布数	977部
有効サンプル数	395部
回収率	40.4%

主な調査項目

- 個人属性
- ももちやりの利用状況
- ももちやりに対する評価
- ももちやり導入によるまちの変化の意識
- ももちやり利用前後での行動変化
- 岡山市中心部の魅力度

調査名	岡山市コミュニティサイクル「ももちやり」に関するアンケート調査(ウェブ調査)
調査対象者	ももちやり利用者
配布・回収方法	無作為抽出後、アンケートのURLをSMSにて送信
調査時期	2016年1月
配布数	4,731部
有効サンプル数	191部
回収率	4.0%

主な調査項目

- 個人属性
- ももちやりの利用状況
- ももちやりに対する評価
- ももちやり導入によるまちの変化の意識
- ももちやり利用前後での行動変化
- 岡山市中心部の魅力度

調査名	岡山市コミュニティサイクル「ももちやり」に関するアンケート調査
調査対象者	ももちやり非利用者
配布・回収方法	岡山駅周辺ポートにて手渡し配布・郵送回収
調査時期	2015年12月
配布数	2,000部
有効サンプル数	547部
回収率	27.4%

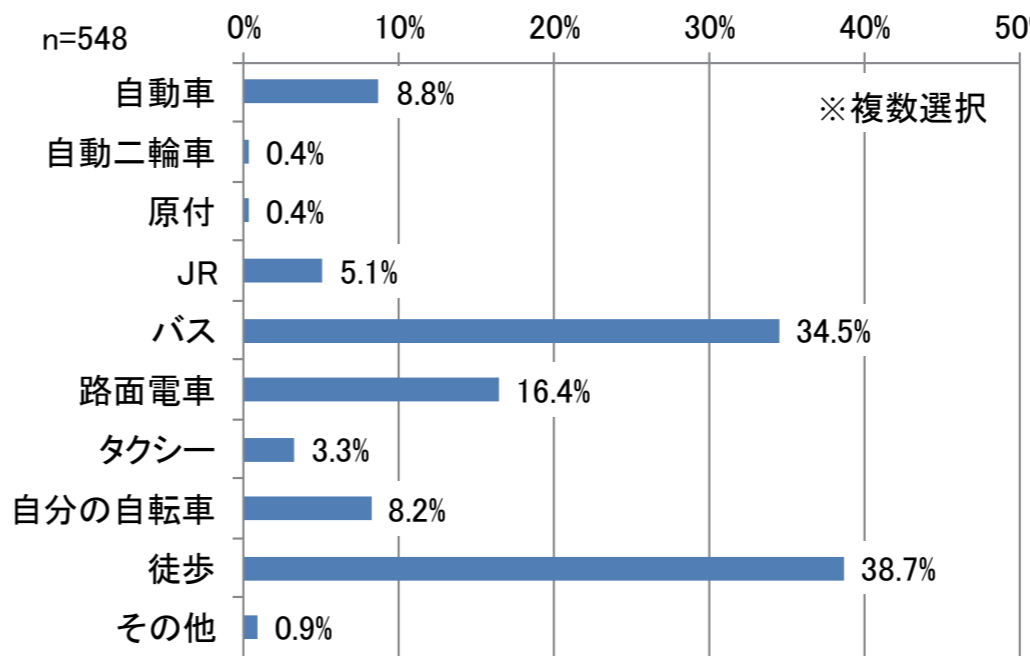
主な調査項目

- 個人属性
- ももちやりに対するイメージ
- ももちやり導入によるまちの変化の意識
- 岡山市中心部での行動
- 岡山市中心部の魅力度

※本研究では岡山市中心部を左図のように定義する

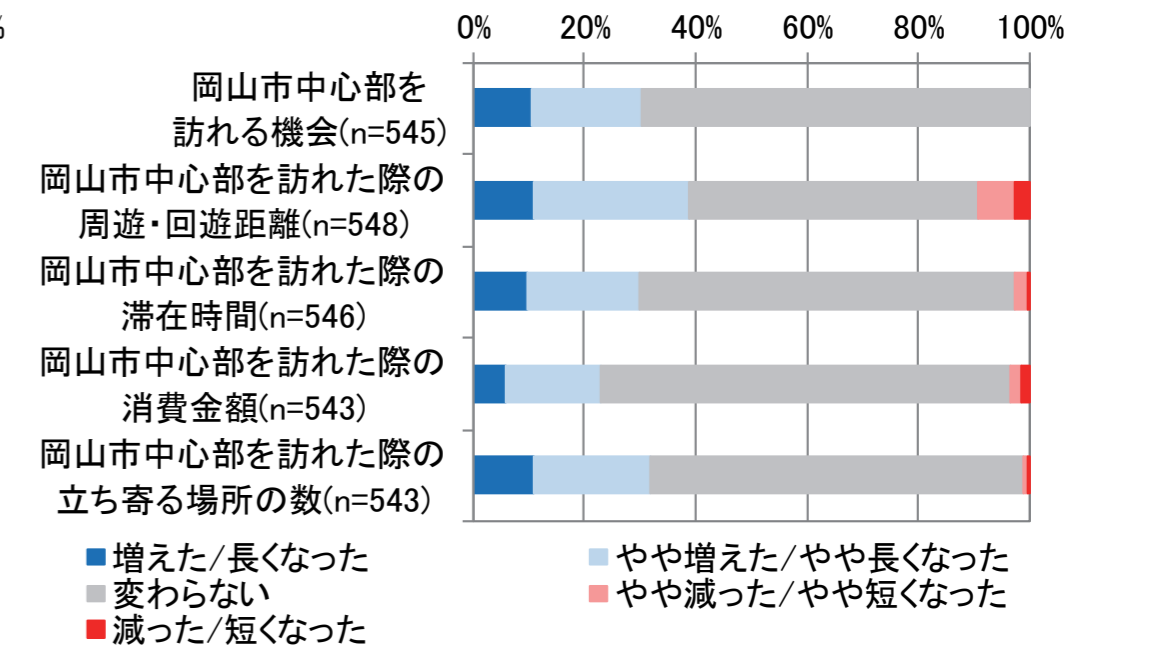
ももちやり利用者の行動変化

ももちやり利用前の交通手段



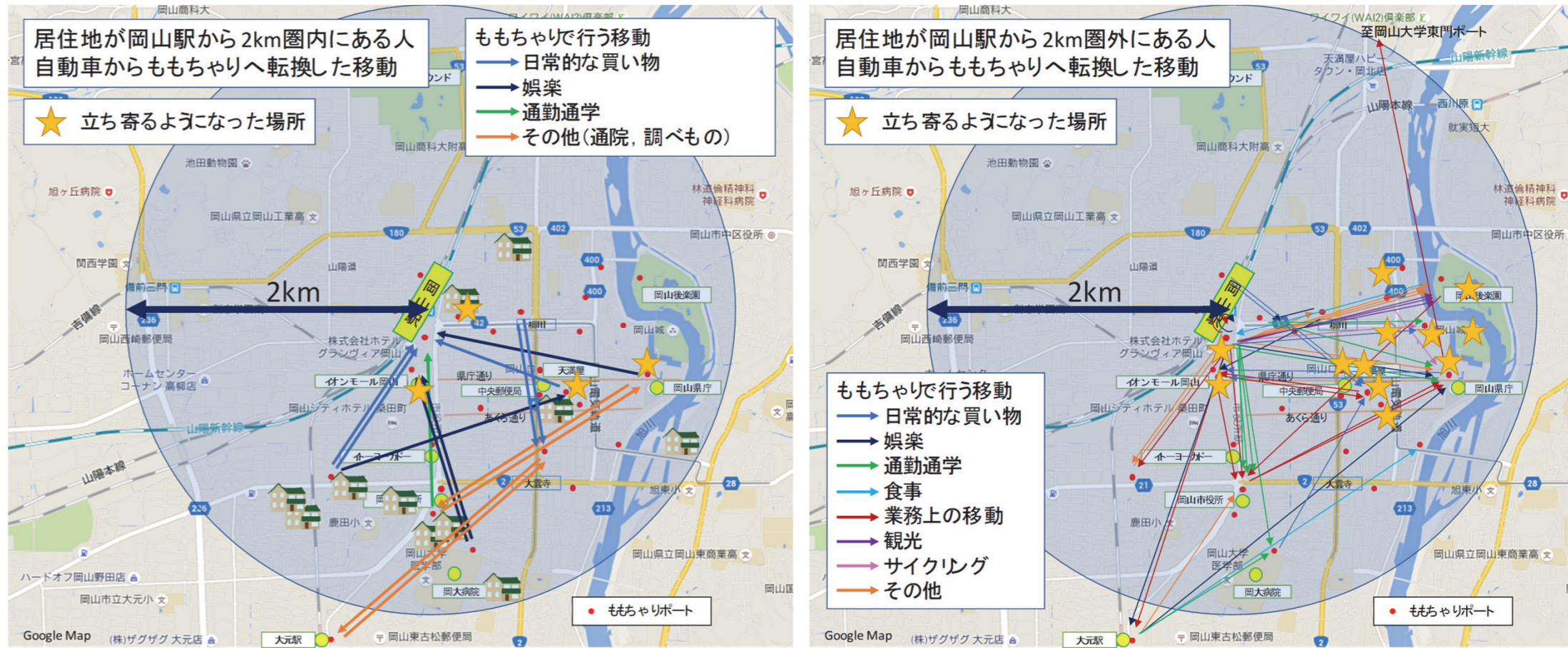
⇒バスや徒歩からの転換が多い

ももちやりを利用するようになったことによる 岡山市中心部での行動の変化



⇒それぞれ約2～4割の人が増加

自動車からの交通手段転換があったももちやりで行う移動



⇒買い物・娯楽目的での利用が多い

⇒岡山駅周辺ポートを発着とした移動が多い
出発ポートまでの交通手段にJRの利用がみられる

結論

- CCS満足度には移動のしやすさ、ポート場所、料金が大きく影響
- 利用者・非利用者ともに、CCSの使いやすさ、ポート場所、利用の楽しさに関する肯定的な評価やイメージがまちの魅力につながる
- 自動車からJRとCCSを組み合わせた交通手段への転換があることを確認